

青森市港湾文化交流施設
青函連絡船メモリアルシップ「八甲田丸」
(海の勉強会運営協議会)

むつ湾シーサイドスクールプロジェクト

実施期間：平成28年7月9日（土）～平成29年3月31日（金）



【事業の内容・目的】

- 県都青森市は本州と北海道の結節点として重要な役割を担い、海上物流の要衝として大きく発展した。本プロジェクトでは海上物流のシンボルである青森市港湾文化交流施設青函連絡船メモリアルシップ「八甲田丸」を活動拠点としながら、豊富な水産資源を有するむつ湾にフォーカスした海の臨海学校「むつ湾シーサイドスクール」を戦略的に展開した。
- 青森が誇る天然の良湾「むつ湾」を学び、近くて遠い存在となっている「海」と「人」の距離を近づけ、市民が海への愛着を取り戻し、市民ひとりひとりに豊かな海を次世代に引き継ぐ重要性を意識づけた。

活動の様子

1. うみべん 2016in 青森・平内

【開催日時】平成28年7月9日（土）9：00～15：00

【開催場所】青森市ウォーターフロントエリア、平内町茂浦

【参加者数】36人

【活動内容・目的】

- 地域の海における海洋環境とわたし達の暮らしの関わりについて、漁業体験など多岐にわたる体験型のイベントに参加しながら再認識するとともに、「海」への興味・関心を持つ機会とした。
 - ・海のゴミ、アマモ、水産生物、青森港の学び
 - ・シーカヤック体験（稚魚放流）
 - ・海の恵みを食す

【海のゴミ、アマモ、水産動物、青森港、の学び】



水産動物について講師が説明している様子



アマモについて講師が説明している様子



青森港について説明している様子



漁獲した魚を観察している様子

海のゴミ、アマモ、アマモ場に生息する魚、伝統漁業、青森港について、それぞれの専門家から講義を受けたことで、今後の海との付き合い方や海との共存について学んだ。

【青森の海の恵みを食す】



むつ湾が誇る青森の幸を確認



むつ湾の幸を食す



シーカヤックの体験



シーカヤックから稚魚の放流

シーカヤックに乗りながらの海洋生物の観察や「メバル」の稚魚を放流する。海上を移動する方法を実際に体験することで、地域の海に対する興味や関心を持つ。

【参加者の声】

○海には魚などがたくさんいるから、その生き物のために私たちが海を守っていかなければいけないということが分かりました。

○船に乗っている時、海上にお菓子の袋が浮いていてとても残念に思いました。一人一人がもっと海だけでなく自然の事を考えて行動していくことが大切だと思います。親子共々、とても楽しく海について学びました。ありがとうございました。

○沢山の魚がいて、それぞれ違う形、生き方をしている事を頭の中だけの知識としてだけでなく、実感出来ました。自然大好き人間ですが、好きなだけではなく、知識を深め、守る活動にも参加してみたくなりました。

2. うみべん 2016in 野辺地

【開催日時】平成28年8月10日(水)9:00～11日(木)14:00

【開催場所】青森県野辺地町、野辺地町漁業協同組合、
十符ヶ浦海水浴場、柴崎地区健康レクリエーション施設

【参加者数】20人

【活動内容・目的】

- 海での観察活動や保全活動をするためのスキルを学ぶためにシュノーケリング教室を開催し、自分が観察できる範囲が広がることで自己有用感を高めることにより継続した海での活動を促した。
- 海と人間とのつきあい方について学ぶために、船に乗りホタテ養殖漁業を見学。今後の海との関係、資源管理について考える機会とした。
- 「海洋」を舞台に社会技能（ソーシャルスキル）向上を図ることを目的に同世代と1泊2日の共同生活を行なった。



シュノーケリングの座学の様子



シュノーケリング座学の様子



シュノーケリングの座学の様子



シュノーケリングの座学の様子



シュノーケリングの実践の様子



シュノーケリングの実践の様子

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



シュノーケリングの実践の様子



シュノーケリングの実践の様子



シュノーケリングの実践の様子



シュノーケリングの実践の様子



漁船に乗船し養殖施設を見学する様子



漁船に乗船し養殖施設を見学する様子

【参加者の声】

○スノーケリングで遠くに行ったら、色々な魚や貝などをみたそうです。人間も陸で生活していると同じで、魚なども海で生活しています。ごみなどを捨てずに自然界を守っていくべきだと思います。

○海水浴とは違い、海の中の様子を間近で見て、水族館の中での世界が本当なんだと感動しました。ただ泳ぐだけでは危険と思っていた海の中も、シュノーケリングを使用すると安全に海の中を楽しめました。

○普段は陸の上から見ている海岸沿いをゆっくり泳いでみて、様々な生き物がいることやゴミが落ちていることを知りました。海をきれいに保つには生活にも気をつけないといけないと思いました。

3. うみゼミ 2016in 平内

【開催日時】平成28年7月30日(土) 9:00 ~ 15:00

平成28年7月31日(日) 9:00 ~ 15:00

【開催場所】株式会社マック事務所(青森市)、青森県平内町土屋

【参加者数】7人

【活動内容・目的】

- 高校生を対象として社会人になる前に海のスキルを取得することで、海に関する職業に興味を抱くきっかけとなる機会とし、次世代へ海を引き継ぐ担い手を育成する。

- ・シュノーケリング教室
- ・体験ダイビング



シュノーケリングの座学の様子



ダイビングポイント到着



船上からダイブしている様子



シュノーケリングしている様子



体験ダイビングの様子



体験ダイビングの様子

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



後片付けの様子

海を観察する技術を取得するため、シュノーケリング教室を行いました。また水中における観察や作業技術を取得するために体験的にスキューバダイビングを実施し、海に対する恐怖心がなくなり、海域環境や守り方をしっかり学ぶことが出来ました。

【参加者の声】

- タツノオトシゴが見れて良かった。海には海には色々な生物がいておもしろいと思ったと同時に、その海を守っていかねばならないと思った。
- きれいなところもあった。しかしゴミが浮いていたり沈んでいた。きれいにしてもっと海が親しみのもてるものにしたいと思った。
- 海の自然や海の守り方をしっかりと学ぶことが出来た。

3. うみゼミ 2016in 青森

【開催日時】平成 28 年 8 月 7 日（日）13:00 ~ 15:00

【開催場所】・青森駅前小規模干潟

【参加者数】15人

【活動内容・目的】※個別の実施活動の内容を「海の学び」の視点で簡潔に、箇条書きで。

- 高校生を対象として社会人になる前に海のスキルを取得することで、海に関する職業に興味を抱くきっかけとなる機会とし、次世代へ海を引き継ぐ担い手を育成する。また、2020年ここへもっと大きな干潟が完成する予定であり、現状把握や維持管理の重要性を学ぶ機会となった。
- ・シュノーケリング教室



シュノーケリング教室の様子



みんなで浮く練習の様子



シュノーケリング教室の様子



シュノーケリングしている様子

海を観察する技術を取得するため、シュノーケリング教室を行いました。また、水中における観察や作業技術を取得することで、海に対する恐怖心がなくなり、海域環境の守り方をしっかり学ぶことができた。2020年に本干潟はもっと大きく広がる予定で、現状の把握やその後の維持管理についても考えるようになった。

3. うみべん 2016/うみゼミ 2016 パネル展示

【開催日時】平成 28 年 12 月 29 日（木）～平成 29 年 3 月 31 日（金）

【開催場所】青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸

【参加者数】6, 158 人

【活動内容・目的】

●今年度行った、うみべん 2016/うみゼミ 2016 の活動をパネル展示することで、多くの市民、県民、県外の方に認知してもらい、青森の海について学んだり、シュノーケリングスキルを取得したい方の参加を誘発する機会となった。また、船の歴史だけでなく、海域環境や漁業、シュノーケリング技術取得援助など幅の広い博物館として八甲田丸をPRすることが出来た。

●勉強会写真、内容、感想文の展示



パネル展示の様子



パネル展示の様子

今年度行った、うみべん 2016/うみゼミ 2016 の活動をパネル展示をすることで、多くの市民、県民、県外の方に認知してもらい、青森の海について学んだり、シュノーケリングスキルを取得したい方の参加を誘発する機会となった。また、船の歴史だけでなく、海域環境や漁業、シュノーケリング技術取得援助など幅の広い博物館として八甲田丸をPRすることが出来た。

【事業全体のまとめ】

- ・これまで、小学校高学年を対象に勉強会を開催してきたが、今回は対象年齢層を広げ、高校生にシュノーケリング教室と体験ダイビング（うみゼミ）を行うことにより、海に対する恐怖心を取り除くことや、海の守り方について益々興味を抱くことになり、これからの職業選択や環境活動に対して深く考えるようになった。また、うみゼミで学んだ高校生がうみべんにスタッフとして積極的に参加し、世代間交流や学んだことを人に教えることによる自己成長につながった。
- ・小学生を対象にした、シュノーケリング教室では今回、保護者も参加してもらったことにより海は危険と思っていた保護者にきちんと勉強すれば安全で楽しいということに気づかせることが出来、海は楽しみながら学べる場所と知ってもらえた。
- ・昨年より応募者が約 1.5 倍増え、年々認知度が高まってきているがそれを補えるほどのスタッフが充実しておらず、今後そのニーズに答えるためには他団体や企業などと更なる連携が必要である。
- ・地引網体験、シーカヤック、シュノーケリング教室、体験ダイビングと海に陸上のゴミがあることが目につき、がっかりしていた。そこで海をきれいにするには陸上でできる事を認識できた。
- ・2020 年、青森駅前に干潟が完成する予定であるが、干潟の重要性などを教えていき参加してくれた方々と親しみを持ちながら楽しく一緒にその環境を管理し、大切にしていきたい。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 青森市教育委員会	青森市内各小学校へ募集用チラシ配布
2. 国土交通省東北地方整備局青森港湾事務所	青森港についての講師
3. 青森海上保安部	海の安全・ゴミについての講師
3. 平内町漁業協同組合	漁法（地引網）の講師
4. 野辺地町漁業協同組合	漁船・養殖施設の講師
5. 生活協同組合コープあおもり	水産生物の講師

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 東奥日報社	10月30日（日）
2.	
3.	
4.	
5.	

以上